



国際センター通信 (No.9)

【活動紹介】国際センター教育 G:平成 25 年度の活動方針と目標

◆ 海外で活動できる人材の育成

■活動の目標と方針

教育グループでは、会員が土木技術者として海外で活躍できることを目標として、研修や講演会などを活用した活動や、そのための枠組みの構築をしていきます。今年度は、次の2つの大きな柱で活動いたします。

- 海外で活躍できる人材育成のための寄付講座の開設
- 海外における建設事業、海外企業とその戦略に関するシンポジウムの実施



土木学会 国際センター
教育 G リーダー
納多 勝

■寄付講座により研修の場を創出

産業界からの会員が研修活動を実施できる寄付講座の開設を目指し、全国の大学より応募をいただけるような仕組みを構築しようと考えております。

- 要望の調査と構想の具体化：海外で活動できる人材育成のために必要とされる教育内容を、建設会社、コンサルタント、メーカーなどの産業界から調査し、大学において実施する講座内容の構想を取りまとめます。
- 公募の実施：産業界の要望を満たす講座の開設を全国の大学に公募します。
- 講座での活動：産業界からの研修生を大学で教育することにより、海外で活動できる人材を育成します。
- 成果の共有：大学の講座に所属することにより、研修員として官庁や海外の企業で活動できる機会の創出が可能になり、また、大学側も研修員の研究成果を今後の研究の一環として利用することができます。
- 運営：同時に参加企業および各方面に寄付を募り、寄付講座の形で運営することとします。
- スケジュール：今年度中に公募をかけ、開設の準備まで仕上げたいと考えております。

■海外企業とその戦略に関するシンポジウムの実施

これまで実施してまいりました、2回の国際建設マネジメント講演会を引き継ぐ形で実施する予定です。

- 内容：海外で活動するための人材育成の一助とするために、海外における建設事業を取り巻く状況、海外企業の状況、海外企業の戦略などの情報を、「海外企業の関係者や関連する研究者より生の声を聞くかたちで」理解するためのシンポジウムといたします。
- 開催時期：今年度の後半に数回のシリーズで実施する予定です。

【第3回 トルコ・日本技術者交流シンポジウム報告】

◆ 第3回トルコ・日本土木技術者交流シンポジウム (5/17、18 イスタンブール工科大学)

2013年5月17日、トルコのイスタンブール工科大学において、第3回トルコ・日本土木技術者交流シンポジウムが日本土木学会、トルコ土木学会及びイスタンブール工科大学の共催にて開催されました。

今回のシンポジウムは、『近年の地震からの教訓と減災という考え方 - 特にイズミット湾横断橋とゲブゼーイズミル自動車道への影響について』と題され、120人以上の参加者が集まりました。講演者として日本から早稲田大学浜田教授を含む5名、トルコから土木学会トルコ支部長であるイスタンブール工科大学 Hasgür 教授を含む6名の計11名が講演を行いました。

橋梁に関する話題が主を占めましたが、地震や津波予測の重要性、将来の発生が予想される大規模災害への対応、さらには原子力発電所の事故時における放射性物質の集積についての話題も紹介されました。また、翌日には25名がイズミット湾横断橋の建設現場を訪問しました。



第3回トルコ・日本土木技術者交流シンポジウム



トルコ分会会長
Zeki Hasgür 教授



第94代JSCE会長
濱田政則教授



IACトルコGr.リーダー
アイダン・オメール教授



イズミット湾横断橋 建設現場

◆ 【報告】第2回日本・インドネシア ジョイントセミナー:建設工事の品質保証システムに関する神話と現実

2013年2月27日にインドネシアのジャカルタ（ビダカラホテル）において、土木学会建設マネジメント委員会、土木学会インドネシア分会、インドネシア公共事業省建設開発庁、バンドン工科大学の共催によるジョイントセミナーが開催された。公共調達方式をテーマとした昨年度の検討内容を踏まえて、今年度は建設工事の品質保証に焦点を当てた。両国の品質保証の現状・課題・解決方法を紹介・共有し、特にインドネシアの品質保証の将来像を検討することを目的とした。インドネシア側の要望によって、セミナーの名称は、「The Myth and Reality of Quality Assurance Systems in Construction Projects」とした。品質保証の神話を放置せず、現実を見つめ、改善していこう、との先方の強い意気込みを感じた。

[>>>詳細はコチラ](#)

海外分会からのお便り

センター通信 No. 3 において、齊藤大輔氏が書かれた“阿波しらさぎ大橋”の設計に関する技術論文が英国構造技術者協会の機関紙 **The Structural Engineer** に掲載されたことを紹介しました。今回、その論文が同協会より Husband Prize を授与されましたが、この賞を日本人技術者が受賞するのは初めてだそうです。これは、海外で活躍する日本技術者の努力の成果であり、また、日本の橋梁技術が高く評価されたという意味において、大変喜ばしいことです。

今後も、センター通信にて海外で活躍する日本人技術者を紹介していきます。どうぞ情報をお寄せ下さい。

[>>>詳細はコチラ \(英文のみ\)](#)

イベント情報

- ・ 7/6 : 留学生向け企業説明会 会場：土木学会講堂（東京・四谷）
<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/>
- ・ 7/22 : ベトナムの港湾基準策定に関する日本・ベトナム合同セミナー((独)国際協力機構（JICA）横浜国際センター) <http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/43>;
https://www.mlit.go.jp/report/press/port05_hh_000043.html;
- ・ 8/20-22 : ACECC 6th CECAR（インドネシア・ジャカルタ）
(<http://committees.jsce.or.jp/acecc/6thcecar>)
- ・ 9/4-7 : 平成 25 年度 土木学会全国大会（日本大学津田沼キャンパス）
- ・ 9 月中旬 : 持続可能な都市開発のための環境・交通マネジメントセミナー（フィリピン・マニラ）

お知らせ

- ◆ 土木学会誌の特集記事の概要を JSCE の website（英語版）にアップしました。
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆ コンクリート委員会 ニュースレター No. 33 が発行されました。
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/Newsletter.htm>

御協力をお願い

国際センターでは、国際活動に関する“情報発信の強化”を目標に掲げ「国際センター通信」を配信しておりますが、更に配信先を拡大し、皆さまと情報を共有していきたいと考えています。

つきましては、皆さまより周囲の方々へ国際センター通信をご紹介いただき、国際センター通信の定期的配信を希望される方には、次の登録フォームよりご登録いただくよう御案内いただけませんか。何卒、御協力のほどよろしくお願いいたします。

「国際センター通信配信希望者 登録フォーム」

- ・日本語版 : (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- ・英語版 : (http://committees.jsce.or.jp/s_iad/iac_news_registration)
- ・英語版 (日本の大学等への留学経験をお持ちの方) : (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/30>)

会長のつぶやき

◆ 技術を磨き意思を明確に

今回で国際センター通信への投稿も最後となります。1年前に「ものづくりは人づくり」とのサブタイトルで土木学会誌にもメッセージを書きました。

土木技術者は、安全で、堅固で、かつ持続する社会のために社会基盤を長きにわたって築いてきました。そうした背景から、土木学会にとって一番重要な役割の一つは、土木技術者が精力的に成長できるような場を提供することです。学会会員は、政府、大学、企業といった様々な分野の人たちで構成されています。このような多様な会員とその会員間の強力なつながりが、土木技術者を教育するための強みとなっています。私自身違った経歴の人たちに何度も驚かされたものですが、それが貴重な経験になっています。

私は土木学会本部と支部間の協力が、土木技術者を育てる環境を提供すると考えていますので、学会本部と支部とのコミュニケーションを強化し、それぞれの支部の活動を活性化するように努力をしてきました。

東日本大震災から2年後となる今年3月、4日間にわたるシンポジウムを開催しました。「被災地の本格復興と日本再生への処方箋」というテーマの下、分野を超えた活発な議論を交わしました。私たちの活動と議論の結果が、復興のみならず土木技術者への教育の基盤となると信じています。

学会では、「社会貢献」、「国際貢献」、「市民交流」という3つのテーマを掲げ、2014年の土木学会100周年記念事業に向けて準備をしています。それを通じて、新世紀を発展させるために会員の力、技術力そして組織力を融合させることを目指しています。それらの活動が会員の発展につながるでしょう。

社会基盤の整備を通して、我々は行動をし、互いにサポートしながら、持続的に発展する社会を実現し、技術者の存在意義を示すべきです。東日本大震災後、技術者の価値に問題を投げかけるような論争はありますが、分別を持って議論し、技術を磨き、人々に信頼される確かな社会基盤を追い求めなければなりません。全ての学会員が、将来の活力ある技術者を育てるために技術を磨き、明確な意思を持って欲しいものです。

編集後記

今年度の国際センターの活動も早や2カ月以上が経過しました。各グループも活動が本格化し、委員の方たちも世界各地を訪問して興味深い情報を提供してくれています。

梅雨の時期に入り太陽が恋しくなる日が続きますが、委員の皆様のご活躍に負けないよう、国際センターも日々の活動に励みたいと思います。

【ご意見・ご質問】: JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。

